

WASEDA MECHANICAL ENGINEERING

VOL. 28

2007年(平成19年)10月1日発行

Newsletter

OCT. 2007

2007年度 機友会総会の報告

2007年度機友会総会が5月12日(土)今回は初めて会場を西早稲田キャンパス内国際会議場に移し、約80名の参加により開催されました。

冒頭、杉島会長が挨拶の中で機友会の現況について述べられ、特に大学創立125周年記念事業募金においては会員のご協力により、現在まで800万円を越す募金が寄せられたと御礼の言葉がありました。

議事は会長の進行で進められ、「2006年度事業報告・決算報告」、小澤監事より「監査報告」があり、下記の2006年度決算報告が承認されました。つづいて「2007年度事業計画(案)・事業予算(案)」が提案され承認されました。また、会則の一部改正が審議され承認されました。

ひき続き2006年度機友会特別賞3件、奨

学論文賞4件の表彰及び発表があり、宮下准教授の指導により各人が要領よく発表、インタビューに答えるという形式で行われました。

その後、浅川教授より、この4月新体制により充足した理工学部について各学科の動きや、新入生の状況について詳しく説明がありました。

キャンパスツアーでは、中央図書館・演劇博物館・会津八一記念館・法学部模擬法廷などを見学、感激を新たにしたいという声も聞かれました。

懇親会は、斎藤 孟名誉教授の乾杯音頭で始められ、田島 清源名誉教授はじめ多くの会員から近況などの報告があり、和やかな雰囲気なかで時間の経つのも忘れる程でした。

最後は小澤監事の音頭による校歌斉唱があり、閉会の運びとなりました。



会長挨拶

来年は理工学部創設100周年を迎え、現在大久保キャンパスに新校舎の建設が進んでいます。2008年度総会は新校舎で開催を計画中で、今まで以上に意義ある総会にしたいと考えておりますので、より多くの方々に参加されることを希望しております。

2006年度決算報告

収入の部

費目	予算額	決算額	差異	備考
前納分会費(06年度分)	3,568,321	3,568,321		
当期入金会費(06年度分)	1,500,000	1,864,500	364,500	
OB会員		1,588,250		翌年度以降分3,888,500
学生会員		276,250		828,750
サポート費	1,500,000	671,000	△829,000	
企業賛助金	30,000		△30,000	
雑収入		3,932	3,932	利息
収入計	6,598,321	6,107,753		
前年度繰越金	2,412,109	2,412,109		
合計	9,010,430	8,519,862	△490,568	

支出の部

費目	予算額	決算額	差異	備考
事業費	3,400,000	3,738,814	△338,814	
ニュースレター発行費	2,000,000	2,172,495	△172,495	
学生支援費	400,000	440,337	△40,337	機友会賞、サークル活動
奨学金	300,000	260,000	40,000	
総会・会議費	700,000	616,535	△165,982	
行事・活動関係費		249,447		パネルディスカッション、ホームカミング
事務運営費	3,180,000	3,581,330	△401,330	
人件費	1,700,000	1,922,525	△222,525	
交通費	300,000	358,980	△58,980	
通信費	300,000	159,475	140,525	
事務文具・印刷費	280,000	412,294	△132,294	
慶弔費		0		
データベース管理費	100,000	205,381	△105,381	
HP契約	500,000	447,300	52,700	
振替手数料		52,310	△52,310	
その他雑費		23,065	△23,065	
支出計	6,580,000	7,320,144	△740,144	
繰越金	2,430,430	1,199,718	△1,230,712	
合計	9,010,430	8,519,862	△490,568	

貸借対照表 2007年3月31日現在

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
新宿北郵便局	8,274,064	引き継ぎ金	6,213,974
郵便振替分	97,600	繰り越金	1,199,718
三菱東京UFJ銀行新宿支店	278,867	預り金 入金済会費	8,484,193
りそな銀行新宿支店	1,514,048		
みずほ銀行新宿西口支店	5,722,566		
現金	10,740		
合計	15,897,885		15,897,885



理工学部・研究科の新たな期待

2007年度より機械科学・航空学科、総合機械工学科が新しく誕生 専攻分野が大きく広がり、下記の通り新しい先生方がご就任になりました。

技術=からくり+材料

機械科学・航空学科 酒井潤一



2000年度にNKKから「物質開発工学科」に、そして今回の理工学部の再編に伴い、「機械科学・航空学科」にお世話になっている。根っからの「材料屋」であり、なかでも「腐食科学・防食工学」、「環境材料科学」に軸を置いているが、技術の中核は機械工学にあると信じている。立派な技術には適切な材料が不可欠である。「使われてこそ材料、上手に使ってこそ技術者」をモットーに教育、研究に励んでいる。最近では社会・産業基盤を如何にパフォーマンスさせ、どのようにメンテナンスすべきか? といった分野に興味を抱いている。橋が落ちる、プラントが爆発する、などなど、本来あってはならないことが現実には繰り返り起きている。全ての人工物はその性能・機能の劣化への道を歩んでいる。装置・機器の安全性、信頼性を高め、寿命を延ばし、ひいては環境保護、資源保全を通じての社会貢献に少しでも寄与できればと念じている。

「機友会との出会いを活かしたい」

機械科学・航空学科 佐藤哲也



理工学部の再編にあたり、早稲田大学に「航空」と名のつく学科ができるということで、幸運にもメンバーに加えていただきました。私は、1992年に東京大学の博士課程を修了し、宇宙航空研究開発機構(JAXA)において、将来の宇宙輸送機や極超音速航空機への適用を目的とした、推進システム(ATREX)の開発研究を行ってきました。ここでは、マッハ6で飛行するジェットエンジンが鍵となっており、新規性に富んだ、学術的、基盤的な技術研究が多いため、大学の若く優秀なパワーを発揮できる場になればと思っています。大学に赴任して数ヶ月が過ぎ、慣れない授業スタイルの違いに戸惑うこともありましたが、非常に楽しく、やりがいのある仕事をさせていただいていることに感謝しております。皆様方が築き上げてきた「機友会」をより発展させるべく、尽力いたしますので、御指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

65歳の新人です。

機械科学・航空学科 中江秀雄



65歳の新人です(この原稿が印刷される頃には66歳の予定)。1964年に金属を卒業し、1970年に工博、1971年1月から日立製作所・機械研究所に勤務し、1983年4月より理工学部金属工学科に勤務し、その後、材料工学科、物質開発工学科を経て、この4月より機械科学・航空学科にお世話になっております。これまで、日立では鋳造、粉末冶金、セラミックス、切削、拡散接合などに従事してきました。本学に着任してからは、固体と液体の界面の基礎学問である濡れを中心に、鋳造、凝固、金属基複合材料などの研究に従事してきました。そして、頭と胃袋を鍛え、人間に強い、元気でやる気のある学生を育てることを目標としてきました。今後もこの方針で学生を鍛えて行きたいと考えております。

宜しく願います。

機械科学・航空学科 増田千利



昭和46年に金属工学科の修士課程修了後、当時の科学技術庁金属材料技術研究所に入りまして、鉄鋼材料、アルミ合金、チタン合金などの金属材料の疲労破壊機構に関する研究に従事しました。金属工学科と機械科の先方のご指導を受けて、早稲田大学で学位を頂きました。その後金属系複合材料に関する研究を続けてきました。平成14年4月に材研に入れていただきまして、引き続き同系の材料に関する研究を行っています。初期には各種航空機の事故調査のお手伝いをしましたが、疲労破壊に関する事故が多く、大変勉強になりました。特に圧力隔壁のリベット周りを切断して、破面のSEM観察を半年ぐらい連日繰り返して、疲労の痕跡を見つけて、寿命の推定を行い、それまでまとめていた結果に良く一致するので、驚いた記憶があります。また宇宙関係では発射できなかった衛星の原因調査も行いまして、深夜まで対策を検討したことがありました。学位後は金属系の複合材料について検討を開始しましたが、徐々に材料を作ることが出来るようになり、自動車や、航空機関連部材に応用すべく検討しています。また複合材料も疲労破壊がかなりかわっていることが分かってきて、大変驚いているところです。今後機械科学・航空学科の発展のためにお手伝いさせていただきたいと思っておりますので、宜しく願います。

「新たな学問展開を目指して」

総合機械工学科 堀部 進



私は、つくば研究学園都市にある金属材料技術研究所(現 物質・材料研究機構)で15年研究生活をおくり、その後1992年より本学の材料工学科・物質開発工学科に所属していましたが、そこでも既に15年が経過いたしました。この間、一貫して材料の疲労の研究を行って参り、損傷累積のミクロ機構解明に焦点をあてながら金属からセラミックスに至る幅広い材料の疲労破壊現象を基礎的観点から調べてきました。本年度より「人間社会における共創の技術」を目指す総合機械工学科のメンバーに加えていただくこととなりましたので、疲労破壊の分野でも文理を問わず様々な学問を融合させた研究活動を推進しながら新たな学問展開を図りたいと考えております。皆様のご支援とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

温室効果ガス削減を目指して

総合機械工学科 中垣隆雄



2007年の理工学部再編を機に、15年間に在籍した東芝を離れ、新設された総合機械工学科の専任教員として着任いたしました。在学中は永田勝也先生のご指導を仰ぎ、斎藤・大野・勝田先生にもお世話になりました。東芝では研究部門に所属し、一貫して新発電システムの研究開発に従事して参りました。熔融炭酸塩型燃料電池や化学再生ガスタービン、二酸化炭素吸収セラミックスの応用など、天然ガスや石炭をはじめとする化石燃料を対象としたシステムが多く、そのほとんどが経済産業省やNEDOの国プロ、あるいは研究機関や電力会社との共同研究でした。したがって、国内外の学協会で公表したこれらの研究成果を屋台骨として、化学・電気・熱エネルギー間の相互変換による環境調和型のエネルギーシステムを創造し、温室効果ガス削減に寄与する研究を展開していきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

「総合機械工学科に迎えて頂きました」

総合機械工学科 吉田 誠



本学にて学位取得の後、広島大学工学部の機械系に勤務しておりました。その後、物質開発工学科に職任致しまして理工学部再編にて2007年度より総合機械工学科の一員に迎えて頂きました。国立大学と比べると講座制でない分だけ対学生教員数が少ないはずですが、技術職員さんと両輪をなすことで教育・研究が円滑に進められている点は、本学の特徴で大事にしなければいけないと思います。研究室では自動車等の輸送機器材料をキーワードと致しまして新素材・加工プロセスの研究開発を行っております。多くの場合産学連携で行っております。産業界の一端の研究開発者とのディスカッションは学生にとっても小職にとっても良い刺激となるばかりか、もう一度教科書を開こうという動機付けにもなっております。使用しているテキストの冒頭に It is difficult to say what is impossible, for the dream of yesterday is the hope of today and the reality of tomorrow. とあります。こうした気持ちが伝わるよう教育に従事出来れば幸いです。

人と自然と機械の「間」

総合機械工学科 上杉 繁



私は1999年に修士課程を修了後、大日本印刷(株)、金沢工業大学「場の研究所」を経て早稲田大学に戻り、2007年より総合機械工学科に着任しました。この間、三輪敬之先生のご指導のもとで「場」のコミュニケーションという問題に出会い、遠隔の人と同じ場に居合わせるような空間を共有する技術について研究してきました。同じ場にいる人との「間」には、例えば相手の気配を察知することや相手に共感することなど、目には見えませんが多様な重層的な身体のはたらきが共有されています。日常生活ではあまり意識することができない、このような身体のはたらきを強めるインタフェース技術を開発することで、人と人、人と自然、人と機械との「間」に豊かな関係を創り出し、社会問題や環境問題などへの実践的な取り組みを視野に入れた教育と研究へ貢献していきたいと思っております。よろしくご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

機友会トピックス

機械工学科名誉教授 山口富士夫先生 CGJapan Award 2007 受賞

2007年3月24日 山口富士夫先生は芸術科学会より表記の賞を受賞され、受賞講演では、「CGJapan Award を受賞して—サザランド先生から学んだこと—」というテーマでご自身の経験のお話をされました。(http://www.yoshida-lab.net/yama-ob/cgjapan2007/08/28.html)



文筆集「昭和ひとけたのひとこと」 昭和30年一理卒有志

卒業後50周年を記念して、昭和30年一理卒有志による随筆集「昭和ひとけたのひとこと」がまとめられました。機械工学科卒という文筆活動にはいささか縁遠い人達ばかりであるが、人それぞれの体験や想いの中から人生の歴史がつづられ、激動の時代を生きた者としてその糧を汲み取っていただければ幸いです。(問合せ先 編集委員代表 鈴木一也)

会員の情報を集めています

日頃より機友会にご協力いただき有難うございます。

同期の方あるいは身近な方に「こんな面白い話がある」「皆さんにお知らせしたい」というような情報がありましたら、機友会までご連絡ください。ニュースレターの会員情報に掲載することを考えております。(採否は事務局にお任せください)

機械工学科名誉教授 山根雅巳先生 バグパイプの風 前進中!

山根雅巳先生はバグパイプのグループ、東京パイプバンドの創設者の一人で、自らスコットランドや米国のサマースクールに参加し奏法を習得した。今はバグパイプ指導者の資格を持つご子息がリーダーとして後を引き継いでいる。今年3月18日、東京表参道でスコットランドのお祭り「セントパトリックスデー」のパレードが行われ、東京パイプバンドがスコットランドの民族衣装を着て堂々の行進をした。(東京新聞 3月30日より抜粋)



機械科のヴィンテージカー「フランクリン」トヨタ博物館へ

1917年米国フランクリン社製のこの車は、長らく神田の交通博物館に保管してもらっていたが、同館がこのほどさいたま市に移転、新たに鉄道博物館に生まれ変わることになり、自動車も返却されることになりました。貴重な歴史ある車でも、大学には適切な保管、展示場所がなく、協議の末トヨタ博物館(名古屋)に寄贈し展示してもらうことになり、去る5月22日に無事同博物館に収納されました。何れ装いを新たに披露してもらえる日が来ると期待しています。(斎藤孟記)



写真は影山
夙君の提供
32年卒

各種イベント

早稲田大学ホームカミングデーに機友会懇親会を開催

早稲田大学の創立125周年「第二世紀」の記念すべき年を祝うべく今年のホームカミングデー(稲門祭)は10月20日(土)に西早稲田キャンパスで開催されます。式典の後、機友会でも7号館220教室において1時ごろから機械工学科の教員を囲んでビール片手に歓談していただきたく会長・事務局スタッフ一同準備してお待ちしています。寄ってみてください!!

招かれる方々は卒業から50・45・35・25年目にあたる昭和33年・38年・48年・58年に卒業・修了の方と同期入学で卒業年次の異なる方です。

昭和38年卒 同期会のお誘い

卒業から45年 大学のホームカミングデーに合わせて下記により同期会を行います。

当日は、機友会懇親会も行われ、学生時代を振り返り、同期会に出席をしていただきたいと思います。

日時 2007年10月20日(土) 16:00~18:00

場所 ホテルグランドパレス 3階 牡丹の間 Tel 03-3264-1166

会費 10,000円

幹事 市岡、今橋、大島、梶山、久保田、城川、山崎
問合せ先: 大島義邦アドレス

ooshima_yoshikuni@nifty.com

第21回機友会ゴルフコンペ開催のお知らせ

記念すべき20回大会も、順延にもかかわらず多数の参加をいただき無事終了しました。今後も更なる発展をめざしてゴルフ委員会一同頑張っています。皆様の参加をお待ちしています。

日時 2007年11月8日(木) 8:00集合
場所 川崎国際生田緑地ゴルフ場
会費 プレー費16,000+食事代+5,000
 (懇親会費、賞品代、写真代)
競技 新ペリア方式(ハンデ上限なし、隠しホールのトリプルカットなし、年齢制限なし)
 問合せ先: 機友会アドレス
 kiyukai@mse.waseda.ac.jp

イベント(見学会)へのお誘い

機友会では一昨年から年2回の見学会とイブニングサロンを開催しています。

見学会も第5回を迎え、それぞれ企業のすばらしい所を見させていただいています。

今回は下記の通り全日空整備工場です。是非ご参加ください。(詳しくはホームページに掲載しています。)

全日空整備工場

日時 2007年11月12日(月) 15:00~16:30
集合場所 東京モノレール新整備場駅改札口
集合時間 14:30(時間厳守)
定員 30名
 終了後懇親会を予定しています。
申込み先 機友会事務局

モビリティシンポジウム“進化する自動車技術とモビリティの将来”

環境、エネルギー、安全に関わる最新の自動車技術の紹介と今後のモビリティのあり方を展望します。(詳しくは機友会HPに掲載します)

日時 2007年11月17日(土) 10:00~17:00
場所 早稲田大学理工学部57号館202教室
懇親会 シンポジウム終了後、理工学部内で行う
事前登録 不要 **参加費** 無料
主催 早大モビリティ研究会 代表: 大聖 泰弘
事務局 青木、小宮、西尾 TEL: 03-5272-3364
 Email: mobility@mse.waseda.ac.jp

パネルディスカッション(就職説明会)を行います。

日時 2007年12月8日(土) 13:00~16:00
場所 57号館 202室
開催 機械工学科2008年度就職担当: 大聖泰弘教授
共催 機友会 : 会長杉島和二郎
 副会長浅川基男教授
パネラー 主要業種各社OB(6~7名)を予定

★毎年出席者も300名を超え、学生からOBへの質問も多く、就職への第一歩となっています。

WMEニューズレター編集後記

新しい国際会議場で無事総会を開催し、ほっとしていると、猛暑の夏が来て、もう秋になりました。時の過ぎ去るのは速いです。早稲田大学大久保キャンパス周辺の変化も目を見張るものがあります。新校舎建設工事が着々と進んでいるし、明治通り地下を通る地下鉄も来年6月には開通し、キャンパスのアクセスは格段に良くなります。理工学部の3学部体制も徐々に姿をあらわしてきます。先進理工学部の総合機械工学科の学生諸君に加え、基幹理工学部もいよいよ来年新2年生から、学科選択による機械科学・航空学科の新人が我々の仲間になります。機械工学科の伝統に新しい風を吹き込むことでしょう。WME編集部も変化を伝える誌面をお届けすべく努力してまいります。(編集担当理事 荻須吉洋)



61号館5Fの研究室から見た工事現場です。08年1月末日完成予定に向けて順調に進んでいます。(07.10.20撮影)

会員 訃 報

2007年4月以降に下記の会員の訃報について連絡がありました。ここに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

卒年	氏名	逝去年月
昭16	旧機械 清水 辰郎	2006.10
昭18	専機 渡辺 尚雄	2005.9
昭22	専運 荒井 秀雄	1999.8
昭22	専運 飯島 昭	2005.7
昭22	専運 大島 清次	2006.11
昭22	専運 小柳 道男	2006.10
昭22	専運 鈴木 唯司	2006.7
昭22	専運 疋田 敬一郎	1998.3
昭22	専運 前田 靖郎	2002.1

昭22	専運	山中 利夫	2006.8
昭22	専機	吉田 智昭	2006.4
昭24	専機	中村 孝行	2006.11
昭26	一理	岩間 明	2007.3
昭28	一理	市川 弘雄	2006.8
昭33	二理	林 隆三	2005.12
昭34	二理	力武 隆	2004.4
昭36	一理	清水 一郎	2006.2
昭36	一理	田中 邦明	2006.12
昭36	一理	土屋 恵司	2006.1
昭36	一理	西堀 定夫	2005.1
昭36	一理	本庄 昭司	2006.9
昭43	一理	岡本 和彦	2006.12
昭58	理工	森 俊道	2006.5

WME ニュースレター vol.28

発行元 早稲田機友会編集委員会

〒169-8555
 東京都新宿区大久保3-4-1
 早稲田大学理工学部内55号館S棟2階
 電話 03-3203-4141(大代表)内線73-5252
 TEL/FAX 03-3205-9727
 E-mail kiyukai@mse.waseda.ac.jp
 http://www.kiyukai.mech.waseda.ac.jp

事務局 月、火、木、金の
 10:00~17:00
 浅井、佐々木、瀬谷

印刷 神谷印刷株式会社
 〒171-0033 東京都豊島区高田1-6-24